

# second 10

[セカンド]  
October  
2013  
Vol.79  
680yen

Brings world of style and trend into daily fashion

2013年10月号(毎月16日発売)  
第6巻第10号通巻71号

洒脱な大人は  
この秋、ヨーロッパ気分。



The Next Trend  
found in  
**Europe**

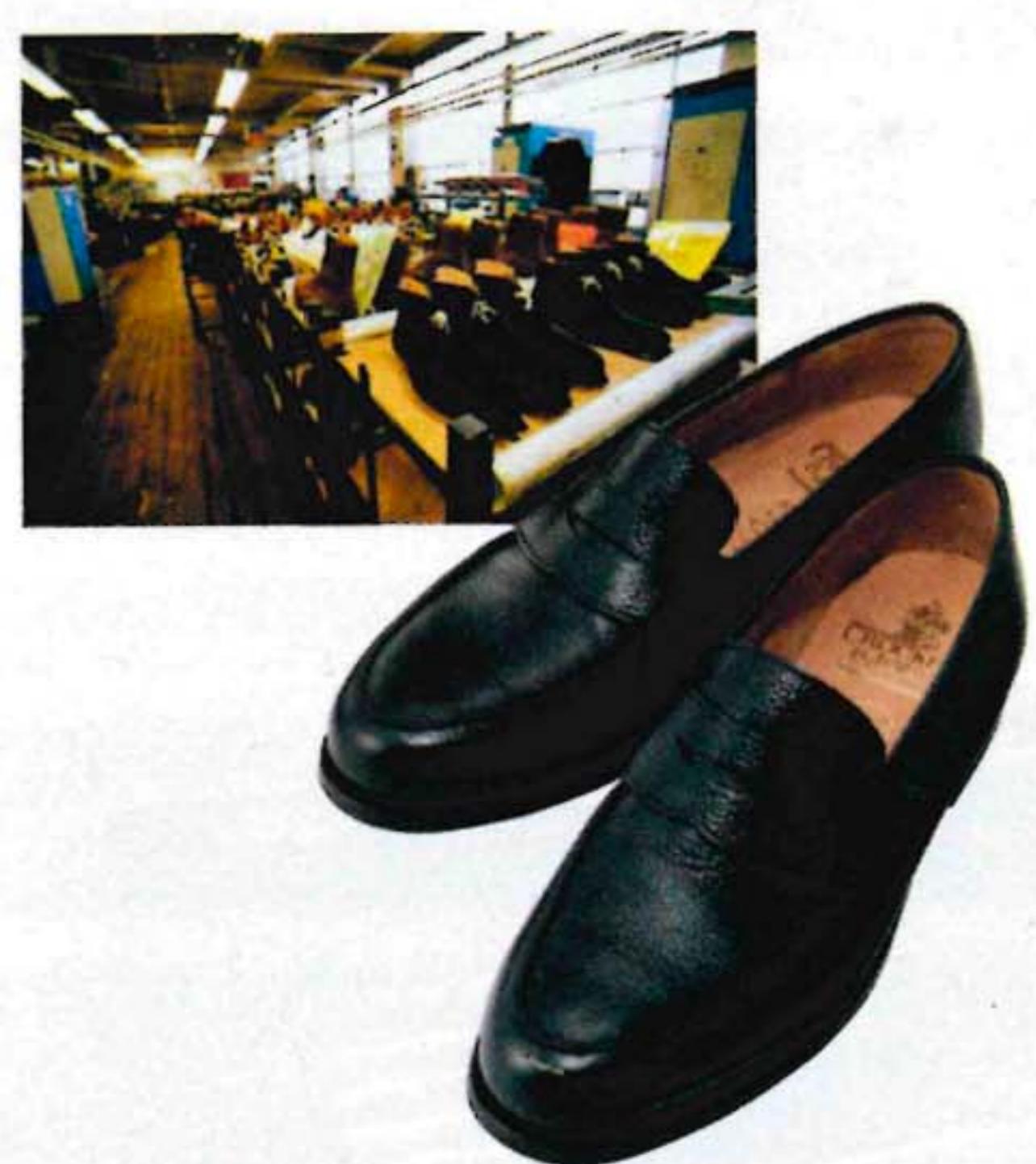
# CONTENTS

# 10

[セカンド]  
October 2013 Vol.79



Cover Design  
R.Kaneko 金子りえ  
Photo  
S.Saito 斎藤優



026

## The Next Trend found in Europe

洒脱な大人はこの秋、ヨーロッパ気分。

今月号はヨーロッパ大特集。この秋冬シーズンに登場する、要注目アイテムのモノ作りの裏側に迫り、その着こなし方も紹介します。ボクらとまったく違う目線で着こなす彼らのセンスを、ボクらのスタイルに取り込みましょう。また、現地のおもしろいショップや世界遺産、さらに食べ物も網羅していますので、ぜひ現地の空気感も味わってください。

028 絶海の孤島でひたむきに編み上げられる世界で一番有名なセーターの話。

039 イタリアが誇るBIG3!  
パンツ専業ブランドを徹底比較。

046 ミラノのショップスタッフはカレッジスウェットをこう着こなす!

048 靴好きを自認するのなら一度は、その“聖地”へ。

053 ひと味違う! ヨーロッパ流の迷彩術。

056 ブルゾン人気再燃。  
その火付け役は英国の雄、バラクータ。

058 欧州ファッショントレンド予測。

062 いまボクらが気になる欧洲プロダクト。

062 ライフスタイルまでもアメリカ色に染まったイタリアン・デニムブランド。

068 次に来るマテリアルは、ズバリドネガルツイードだと思う。

072 ヨーロピュニフォームをモチーフにアップデート。

074 アイルランドの伝統を足元から体現する。  
コーデに変化を与えるネオンカラーコート。

075 ロング丈バブアーはステンカラーコート感覚で。

076 アメリカ面なのに上品なのがフランスブランド。

078 パリで創造する、ということ。

079 持ち運びに便利すぎる、わずか120グラムの薄軽コート。  
アメリカンブーツの雄から上品なヨーロッパデザイン登場。  
ジェントルマン御用達、自転車専用バッグをハラコに。

080 イタリアンコードバンなら多色展開も可能。

081 いま狙い目なのはUKサドルレザー。

082 旬な欧洲カジュアル靴が一堂に会する名店。

083 祝! 80周年

Plein LACOSTE

ラコステがいっぱい。



SAMPLE ITEM!



この2アイテムはまるでヴィンテージのような雰囲気を醸し出しているが、れっきとした新品。ブルーブランケットの加工モデルだ。リアルな使用感やリバースなど、高い技術で再現されている。残念ながらこちらは現在販売はしていない。ぜひ再販を！



まるで  
ヴィンテージの  
ような加工！

ウエスタンシャツも  
イタリアンな  
シルエットに！

シャツの本場、イタリアだけあって、シルエットにはかなりこだわった。細身なので着込んだ時の色々にも期待したい。2万9400円

## エレガントなアメリカン・クロージングが生まれる MADE IN ITALYの現場。

岡山・児島のデニム生地を使ったブルーブランケットのアイテムはイタリアのペスカーラの縫製工場で生産される。そこで生み出されていく、同ブランドの製品はイタリア・メイドならではの上品な佇まいが印象的だ。

右／アジア人が働く工場が多い中、ブルーブランケットではすべて地元のイタリア人が働いている  
左上／生地加工を行う工場で自ら加工を施してくれたアントニオ。回転するブラシで、デニムの色を落としていく  
左下／ファクトリーで製品をチェックするアントニオ。ちなみに工場のミシンのほとんどが日本製



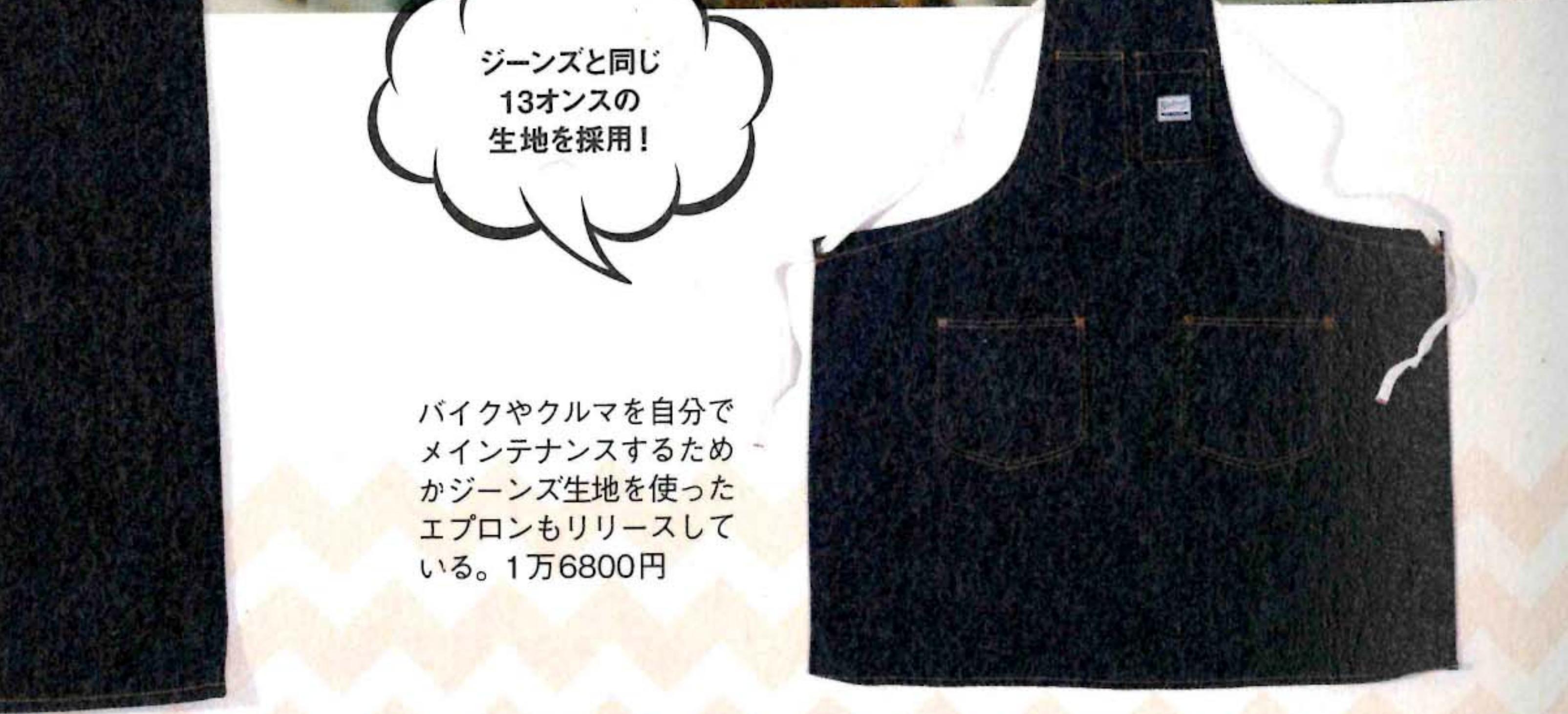
イタリア製ならではの  
エレガントな佇まい

超長綿を使ったイタリアンコットンを使用した  
B.D.シャツ。肉厚ながらエレガントな質感を醸す。3万5700円



イタリア製デッド  
ストックのキャンバス  
ケースが付属する

ブルーブランケットの定番モデルで、きれいなスリムストレートのシルエットを誇る「P01」。腰でピタッと止まり、膝下までスッキリとおさまる穿き心地が特徴的。3万4650円



ジーンズと同じ  
13オンスの  
生地を採用！

バイクやクルマを自分で  
メインテナンスするため  
かジーンズ生地を使った  
エプロンもリリースして  
いる。1万6800円



クラシカルな  
デニムJKTを  
イタリア的に解釈！

ヴィンテージのディテー  
ルを踏襲しつつも、イタ  
リアンクロージングなら  
ではの絞られた美しいシ  
ルエットを実現している。  
5万2500円

# The Next Trend found in Europe.

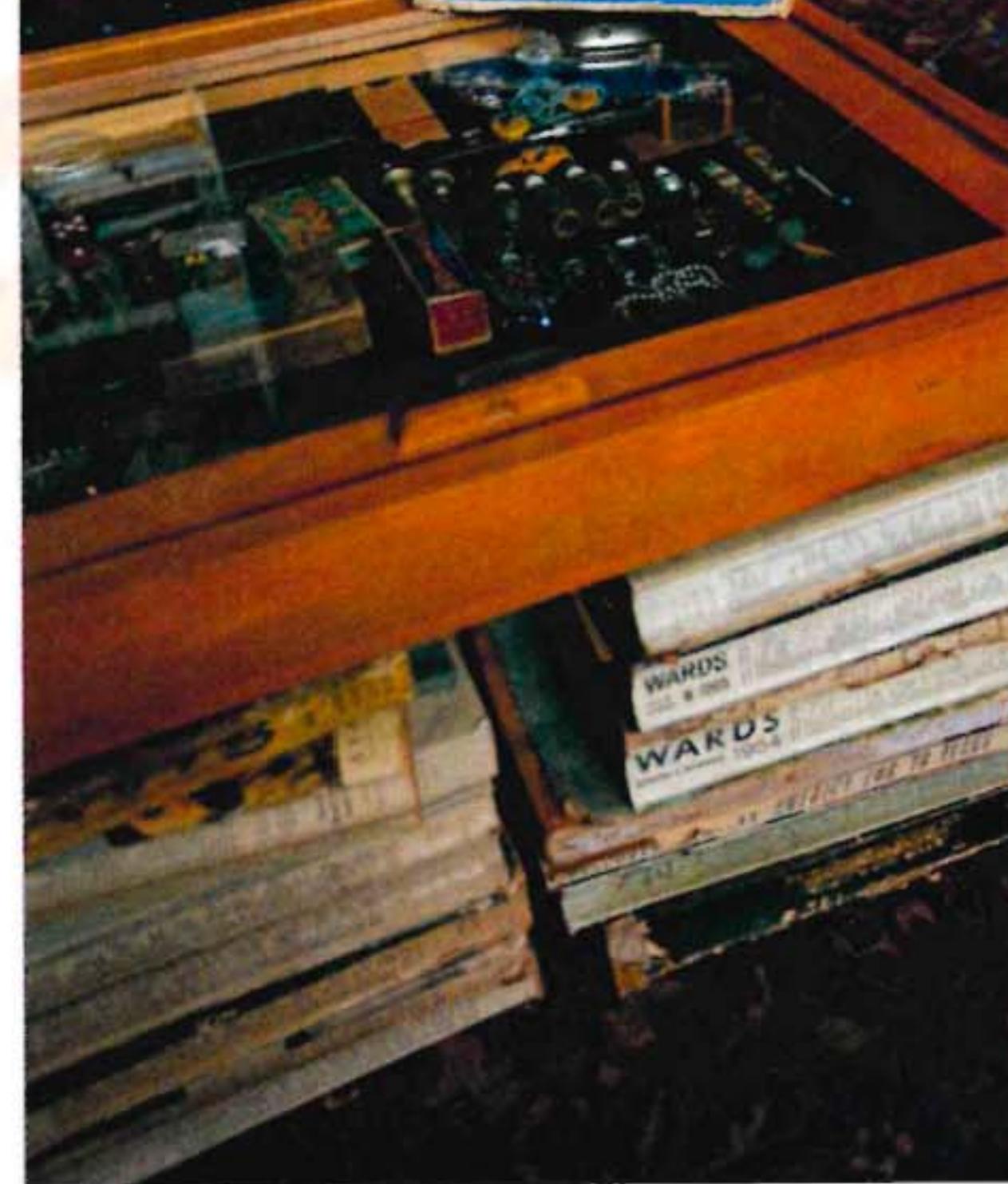
Ireland / Italy / France / United Kingdom / etc...

趣味でバンドを組んでいるアントニオはヴィンテージのギブソンSGをコレクションしている。デニムと同じで塗装や木目の経年変化が好きなのだとか

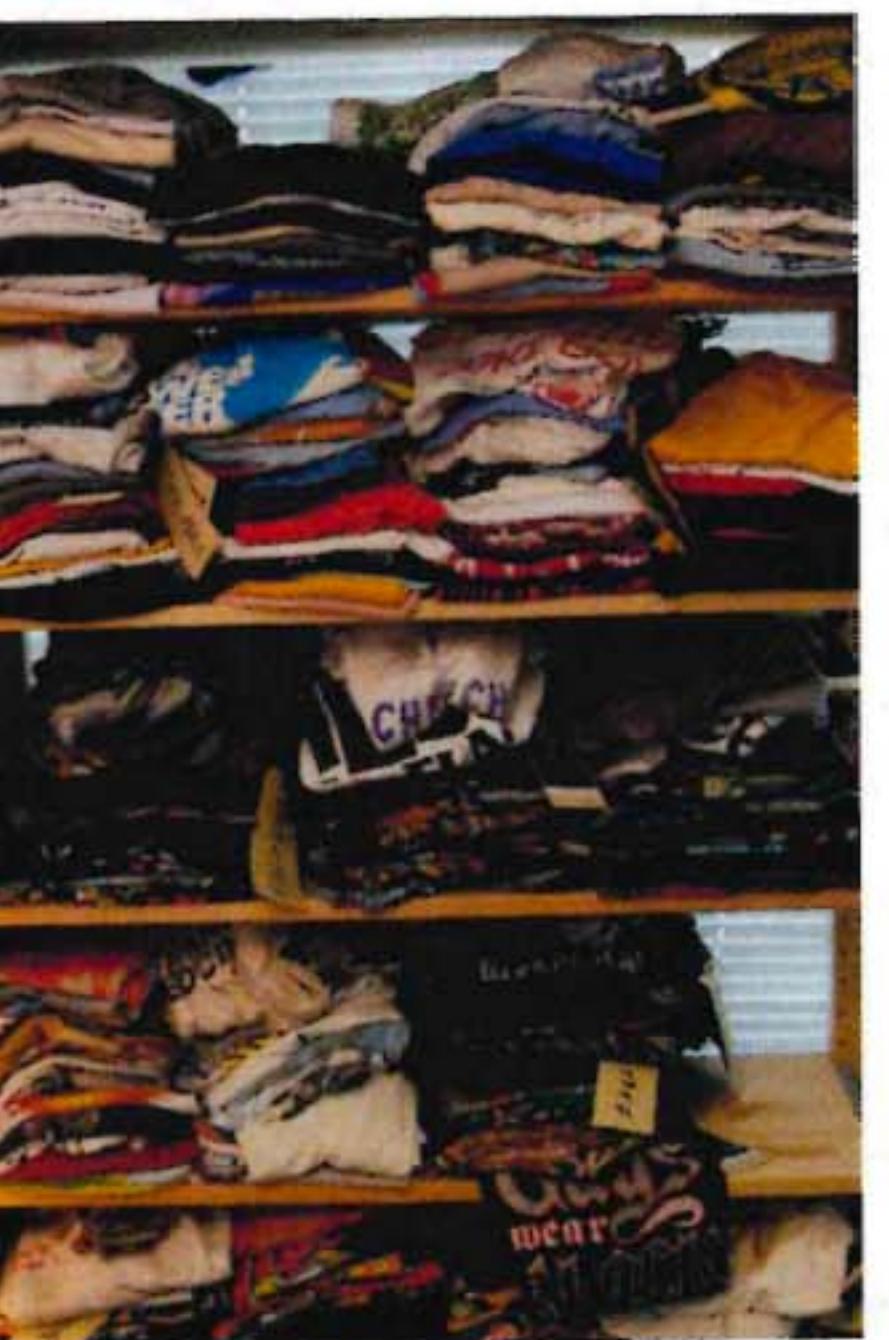
愛車は1969年式シボレー エルカミーノ。アメリカ車を修理するファクトリーは少なく基本は自分でメンテをするという。もちろんコンディションも抜群



フェラリよりも  
目立つぜ!



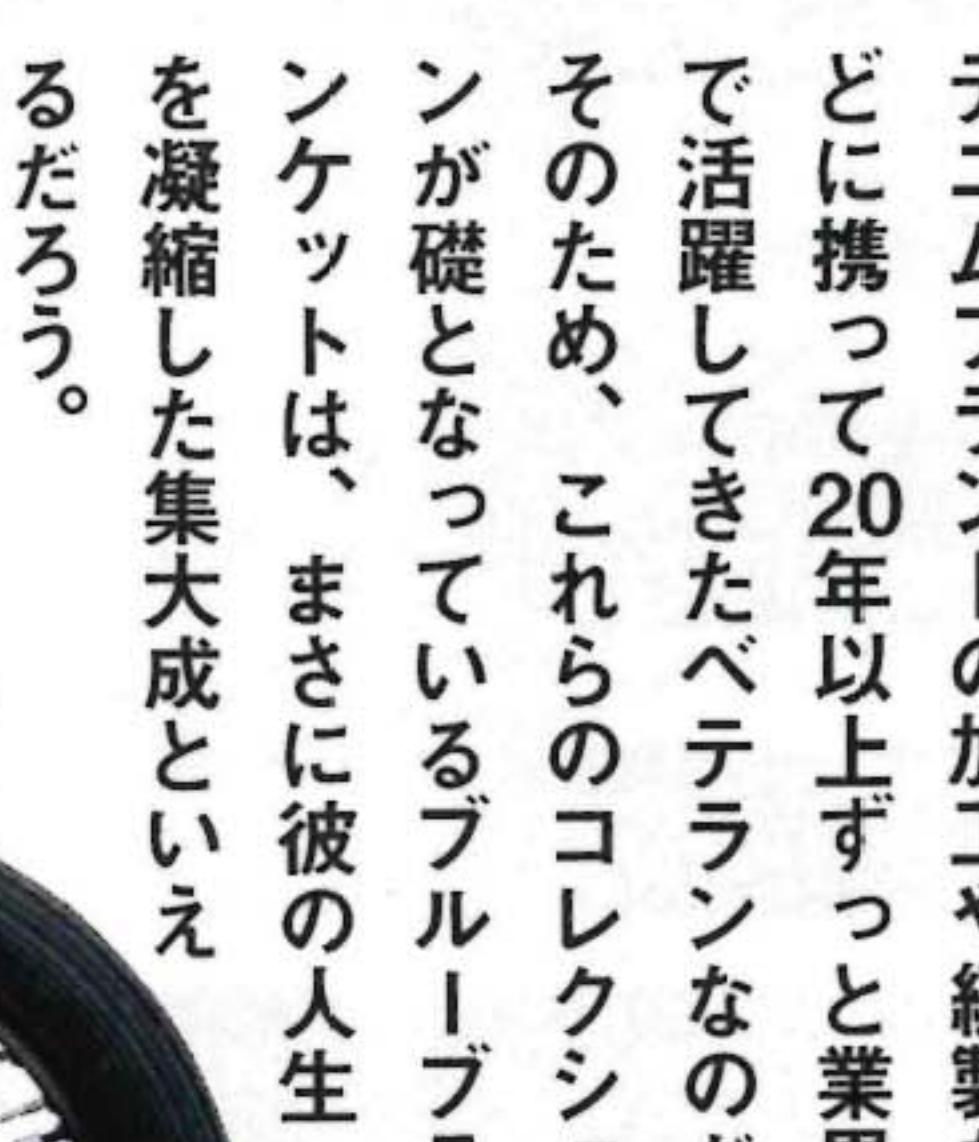
事務所にあるコーヒーテーブルは、モンゴメリーワードやシアーズのヴィンテージカタログを積み上げて天板を設置している、同ブランドらしいアイデア



資料用としてのプリントTシャツも、大量にストックしている。'80年代のモーターサイクル系のプリントが多くみられた



テーブルの中には古いクラマのバーツやベルトのバックルなどヴィンテージの金属を集めただけのコレクションされていた



アントニオは'69年式のトライアンフT100が愛車。メインフレームとエンジン以外はすべてカスタムした

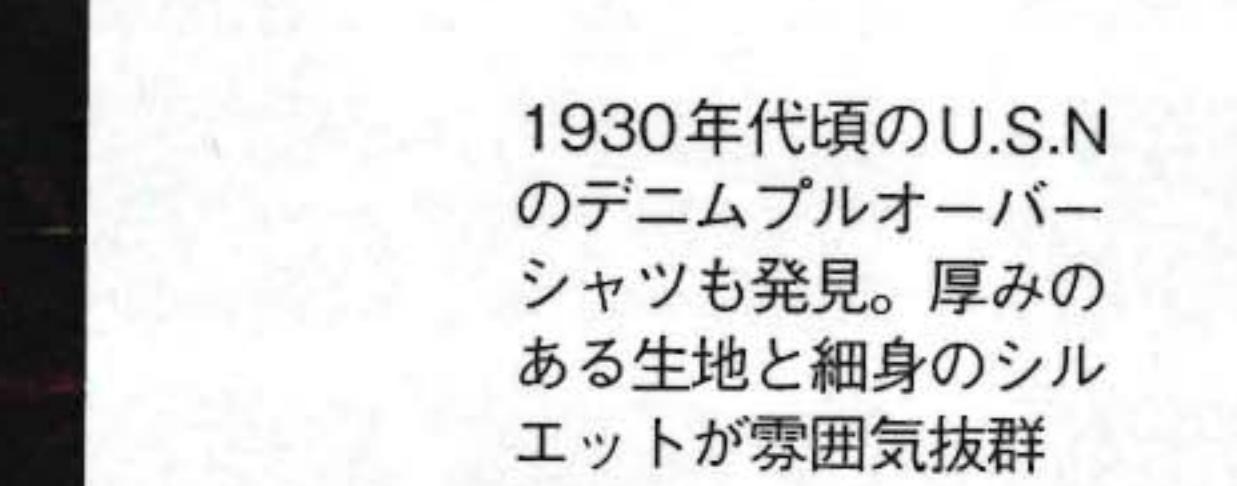


これが俺達の  
スタイル!

つてきた。  
なお彼ら全員がモーターサイクル好きという一面もユニークである。アントニオの旧いトラインフをはじめ、日本車、ハーレーをカスタムし、海に面した陽気なスカーラの街を走る彼らの姿は、まさにアメリカ西海岸ノリのモーターサイクリングチャーチャーを彷彿とさせるのだ。アントニオの半生はジーンズと共に歩んできた。若い頃からアメリカンカルチャーへの憧れがあつたため、服の趣味も自然とジーンズなどワークウェアに傾倒していく。そのため、これらのコレクションが確となっているブルーブランケットは、まさに彼の人生を凝縮した集大成といえるだろう。

つってきた。

なお彼ら全員がモーターサイクル好きという一面もユニークである。アントニオの旧いトラインフをはじめ、日本車、ハーレーをカスタムし、海に面した陽気なスカーラの街を走る彼らの姿は、まさにアメリカ西海岸ノリのモーターサイクリングチャーチャーを彷彿とさせるのだ。アントニオの半生はジーンズと共に歩んできた。若い頃からアメリカンカルチャーへの憧れがあつたため、服の趣味も自然とジーンズなどワークウェアに傾倒していく。そのため、これらのコレクションが確となっているブルーブランケットは、まさに彼の人生を凝縮した集大成といえるだろう。



炭鉱から発掘した1880年代のワークパンツの一枚のディテールを忠実に再現したブルーブランケットのオリジナルアイテム



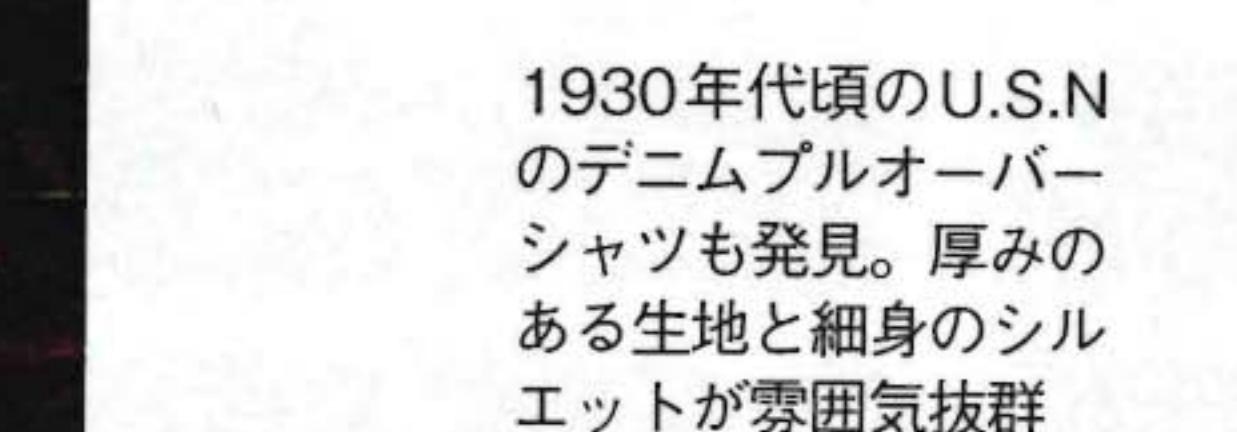
1920年代のE&Hのカバーオール。昔ながらのヘビーオンスデニムのためハッキリとしたタテ落ちが現れている



コレクションの一つである1901年製のリバース501XX。この時代の革パッチは柔らかいため状態のよいま残っている



「たぶん欧州では一番ジーンズを持っているんじゃないかな(笑)」と自負するだけあり、その数と質はハンパではない



1930年代頃のU.S.Nのデニムブルオーバーシャツも発見。厚みのある生地と細身のシルエットが雰囲気抜群



ジーンズ以外もコレクション!

# The European Products

いまボクらが気になる  
欧洲。プロダクト

ワードローブには比較的アメリカンブランドが多いボクらだけれど、何だか最近気になっているのはヨーロッパのプロダクト。そんなアメリカ好きなボクの琴線に触れる欧洲からのアイテムをキーワードと共にざっと集めてきた。



Pick up the next

01

ライフスタイルまでも  
アメリカ色に染まった  
イタリアン・チームブランド。

Photo/M.Nagata 桃田雅裕 (Studio Samut) Text/K.Sakamoto 坂本桂樹  
Coordinate/K.Tsumoto 問い合せ ブルーブランケットジャパン 086-241-8888 www.blue-blanket.jp/

ブルーブランケットは'08年誕生したばかりのイタリアのデニムブランド。アメリカンヴィンテージクロージングをモチーフに、日本のデニム生地を使い、自國イタリアで生産しているのが面白い。発起人であり統括ディレクターのアントニオ(写真中央)、プロモー

ーションを担当する二一ノ(写真右)、生産管理を行うダビデ(写真左)の3人が、その中心人物だ。そんな彼らのライフスタイルは、イタリア人とは思えないほど「旧きよきアメリカ、に囲まれた生活を送っている」という話を聞き、実際に彼らがいる街を訪ねた。